周南市菊川地区における児童・生徒への交通安全教育を通じた通学路の意識と行動の変化について(2016-2018 年度)

徳山工業高等専門学校　　正会員　○目山　直樹

１．はじめに

(1) 学校安全対策アドバイザーとしての活動

2012年に起きた京都府亀岡市の通学中児童・保護者の列を巻き込んだ交通事故事案を受け，通学路の安全対策が社会問題視されるようになった[1]．この後，通学路緊急点検が行われ，教育現場と道路管理者・交通管理者が連携・協力して通学路の安全対策に取り組む契機となった．山口県でも2013年度から通学路安全対策アドバイザー（2017年より学校安全アドバイザー）が制度化され，小・中学校での交通安全教育と年1回の通学路安全対策合同会議での研修講師に取り組んでいる．

(2) 本研究の着眼点と位置づけ

著者の研究[2),3)]の着眼点は，2011年度に周南市立勝間小学校の通学路で起きた国道2号接触事故から，児童・生徒らが交通ルールを十分認識していないと考え，双方に交通安全教育を実施し，よりリスクの低い交通行動に変容を促すことを意図した．このような行動変容を促す手法としてMM[4)]のアドヴァイス法[5)]を準用した．

既往研究では，交通ハザードマップやヒヤリハットマップを用いた交通安全教育の研究例がいくつかみられる[6),7),8)]．著者が指導してきた卒業研究の中で，通学時の歩行者・自転車双方にアプローチし意識の違いや共有すべきルールを明らかにし[9)]，学年進行によりに認識したルールを意識し続けること，地区間で危険意識に差異があることを明らかにした[10)]．また，4年にわたる活動成果（表-1）から，危険意識の低い集団であっても，継続的な交通安全教育で危険意識の向上や安全な行動に変えようとする意識が観測できた[11)]．

表-1　菊川地区での取り組み[9),10),11),12)]

2015年度		菊川地区での交通安全教育を開始
	6月	菊川小学校3年生以上に交通安全講話を実施 講話前後に事前･事後アンケート実施
2016年度	7月	事前観測調査
	9月	菊川小学校3～6年生，菊川中学校全学年に交通安全講話を実施
	10月	事後観測調査
2017年度	9月	事前観測調査 菊川小学校3～6年生，菊川中学校全学年に交通安全講話を実施 事前事後にアンケート実施
	10月	事後観測調査
2018年度	7月	事前観測調査
	9月	事前観測調査 菊川小学校3～6年生に交通安全講話を実施
	10月	菊川中学校全学年に交通安全講話を実施 事後観測調査

表-2　交通安全講話の実施状況(2018年)

	菊川小学校	菊川中学校
対象学年	3～6年生の全児童	全学年の全生徒
講話時間	45分間	50分間
説明内容	通学路の危険	通学路の危険
	交通安全7則	交通安全7則
	–	自転車安全利用5則

２．研究の目的と方法

(1) 研究の目的

本研究は，周南市菊川地区を対象に，4年にわたり小・中学生双方に交通安全教育を実施し，受講前後のアンケートや通行位置実測調査を通じ，正しい交通規則を認識させ，危険意識を醸成し，より安全な交通行動へと変化を促すための手法検討を目的とする．

(2) 研究の方法

小・中学校双方に交通安全教育を行い，共通の通学路での通行空間の改善に着目した交通安全教育について検討する。

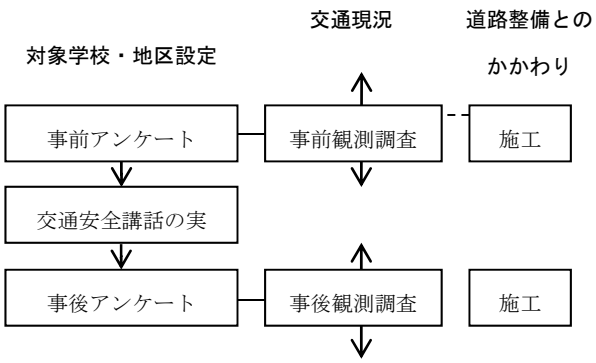

図-1　調査の組み立て

キーワード　交通安全教育，交通安全，通学路，危険意識，交通行動，アンケート調査

連絡先　〒745-8585　山口県周南市学園台　徳山工業高等専門学校土木建築工学科　TEL0834-29-6334

© Japan Society of Civil Engineers

３．交通安全講話と児童・生徒の変化

（1）2018年度の意識変化

危険意識の変化は, 小学校では学年により差があり, 中学校ではどの学年も危険意識が高まった.

交通安全7則では，小・中学校ともに全ての項目で事前より事後の意識が上回った．「横断歩道のないところでは広い道路を渡らない」と「広い歩道では歩行者は車道と反対側を通る」は大幅増加した.

自転車利用5則では「歩道を通るのは例外的に許可される場合だけ」と「歩道では歩行者優先で，車道よりを徐行すること」が事前に比べて，どちらも2割程度増加し，全項目で8割近くの変容意向があった.

（2）2018年度の行動変化

講話後，小学生は観測した全ての地点で通行位置を守っていた．中学生はE地点で，事後に歩行者，自転車ともに100％が通行位置を守るように変わったが，B地点では，歩行者79％，自転車75％．C地点では，歩行者80％，自転車86％と100％に届かなかった.

（3）2016～2018年の変化

小学生は学年が上がるにつれて危険意識が向上しているが，中学生になると一気に危険意識が低下することがわかった．また，交通安全講話をした直後の危険意識が，次年度の講話前まで意識継続されていないことがわかった.

交差点での一時停止については, 2年前の事前調査で14％が，今年度の事後調査では95％に上昇した.

図-2　通行位置を守っている割合（2018年）

謝辞：本研究を進めるにあたり，菊川地区の小・中学校ならびに児童・生徒、保護者、地域住民の方々の協力を得た．記して謝意を表したい．また，通学路安全対策アドバイザーとして派遣いただいた山口県教育庁学校安全･体育課, 周南市教育委員会学校教育課には，この研究の機会をいただいた．山口県道路建設課，周南市道路課など関係機関の協力を得た．本研究は科学研究費補助金・挑戦的萌芽的研究「学校・地域社会・行政の連携による通学路安全対策の仕組みづくりに関する実践的研究」,2016～2018年度の成果の一部である．関係各位に対し謝意を表したい.

参考文献

1) 朝日新聞：無免許運転の少年，懲役 5-8 年判決 亀岡 1 人死傷　社説，2016 年 3 月 3 日最終確認
2) 目山直樹，小田村清，原田剛，原田幸蔵，福田桂大，後藤晃徳:「周南市勝間小学校での通学路安全対策の取り組み」, 土木学会　第 6 回土木と学校教育フォーラム（ポスター発表），2014.
3) 目山直樹，原田幸蔵，福田桂大:「小学生・中学生双方への交通安全教育を通じた通学路に対する危険意識の変化」，第 31 回日本道路会議，2015．10 月
4) 国土交通省：モビリティマネジメント　パンフレット p.1，2007.3
5) 国土交通省：モビリティマネジメント　パンフレット p.3，2007.3
6) 金井信昌，片田敏孝，大橋啓造:土木計画学研究・論文集：高校生を対象とした交通ハザードマップを用いた交通安全教育の効果と課題　pp.1001-1010，2005
7) 松村暢彦，伊藤大介，新田保次: 土木計画学研究・講演集：「自転車ヒヤリ地図」による態度・交通行動変容効果の実証的研究 pp.205-208，2004
8) 田中俊輔, 小柳純也, 木戸伴雄, 高田邦道：土木学会　土木計画学講演集：自転車歩行者道の形態の違いが自転車の走行挙動に及ぼす影響　2002
9) 石渡裕：「周南市菊川地区における通学路安全対策の基礎的検討」，平成 28 年度卒業研究論文集，徳山工業高等専門学校土木建築工学科
10) 村田裕平：「周南市菊川地区通学路における自転車通学者に着目した通行空間分離の検討」，平成 29 年度卒業研究論文集，徳山工業高等専門学校土木建築工学科
11) 目山直樹：5 年にわたる交通安全教育と児童・生徒の意識と行動の変化，周南市勝間地区での事例研究，日本都市計画学会中国四国支部，第 13 回都市計画研究講演集，2018 年 4 月
12) 清水海希：周南市菊川地区における交通安全教育を通じた児童・生徒の意識と行動の変化，平成 30 年度卒業論文集，徳山工業高等専門学校土木建築工学科
13) 鹿児島県警察:平成 19 年道路交通法一部改正による交通ルールの改正：https://www.pref.kagoshima.jp/ja23/police/hourei/koutsu/doukouhou/jitensya.html, 2019 年 3 月 20 日最終確認
14) 警視庁:自転車安全利用五則：http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kotu/bicycle/five_rule.htm，2019 年 3 月 20 日最終確認

© Japan Society of Civil Engineers